16.　帰宅困難を体験、規律正しく忍耐強い日本人

王新芯　40 代　研究職　江東区大島在住

- どこに誰といましたか。

  港区三田、慶應大学キャンパス内西館 1 階の教室で研究会に参加していました。

- まわりに人がいましたか。そのときとった行動は？

  研究会議には 100 名ほどが参加していました。皆と一緒に会場の教室から、校庭へ移動しました。校庭内の大きな建物や木から離れた場所に行って、避難しました。その後、大学の指示にしたがって、臨時地震避難所である南館に移動しました。

- 自宅には、どのように帰りましたか。

  21：30ごろ大学を出て、運転を再開した都営地下鉄浅草線と大江戸線を乗り継いで、「森下駅」に行きました。各改札口で約 1 時間待ち、ホームに入っても電車混んでいて、2-3人ずつしか乗れませんでしたが、皆、1列に並んで静かに乗車を待っていました。ホームに入ってから電車に乗るまで、1時間半かかりました。

  森下駅では結局、都営地下鉄新宿線に乗れなかったため、徒歩で自宅に帰りました。森下から大島までの道が分からず、知らない人に聞くと皆、親切に教えてくれました。多くの人と一緒に深夜歩いたことは、これまでの人生にとってよい経験になりました。結局のところ、家に帰ったのは翌 12 日の 3 時でした。

- 自宅の被害はありましたか。

  自宅は、鉄筋 14 階建マンションの 6 階で、本棚の本が落ちているだけでした。

- 最後にひとこと。

  地震は天災でしかたがないにしても、地震発生後、日本人の規律性や忍耐力が非常に高いことを中国人として実感しました。ただし、地震予測の研究や地震対策の周知、さらに防災訓練の実施をより多く行ったほうがいいと思います。

2011 年 7 月 3 日